

## 20 沖縄の野鳥

自然

### ●沖縄で確認された野鳥の種類は約 500 種

沖縄で確認された野鳥の種類は、約 500 種になる（2018 年現在）。日本全国で確認されている鳥類が約 633 種（2012 年現在）となっており、稀な渡り鳥も含め、日本全国で見られる野鳥の約 80%を沖縄県で見ることができる。

### ●野鳥の渡りについて

野鳥は、渡りをしない鳥、渡りをする鳥に大きく分けられる。さらに渡る鳥にも季節があり、渡りは以下の 5 つに分類される。

留鳥	一年中同一地方に生活し、季節移動をしない鳥。	ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イソヒヨドリなど
夏鳥	春から初夏の頃、日本より南の越冬地から一つの地方へ移動して営巣・繁殖し、秋季に再び温暖な南の越冬地に去る渡り鳥をいう。	アカショウビン、コアシサシ、ベニアジサシなど
冬鳥	日本より北の地方から夏季の終わりや秋季に渡来して越冬し、春季に去って、夏季には北方の地域で営巣・繁殖する渡り鳥をいう。	ダイサギ、イソシギ、シロハラ、ハヤブサなど
旅鳥	ある渡り鳥が春と秋の渡りの途中に一つの地方を通過する場合、その地方において、その鳥を旅鳥という。	ツバメ、アカハラダカ、キアシシギなど
迷鳥	平常は生息も渡来もしないが、台風等その他偶然の機会により、一地方にたまたま現れる鳥類をいう。	コウノトリ、ミヤコドリ、オウチュウなど

### ●沖縄の主な野鳥の渡り一覧

沖縄に生息する主な野鳥を渡りで区分した。ここでは、「沖縄の野鳥」に写真が掲載されている種類のみ記載している。なかには、留鳥と渡りの両方にあてはまる種もあるが、主な生息状況で判断し分類している。

「沖縄の野鳥」に写真掲載されている 329 種のうち、留鳥は 50 種、夏鳥 14 種、冬鳥 97 種、旅鳥 73 種、迷鳥 94 種となっており、278 種が渡ってくる鳥で、約 80%を占めている。また、生息環境でみると、水鳥が 167 種（約 60%）、陸鳥が 111 種（約 40%）となっており、水鳥の占める割合が大きくなっている。このことから、鳥たちにとって沖縄の自然は、気候的・地勢的には越冬地や中継地として重要であるとともに、水鳥の割合の高さから、干潟や水田などの水辺環境を守ることがいかに大切であるかわかる。

留鳥 50 種	
水鳥 18 種	カイツブリ・アホウドリ・カツオドリ・リュウキュウヨシゴイ・スグロミソゴイ・ゴイサギ・クロサギ・ムラサキサギ・オシドリ・マガモ・カルガモ・オオクイナ・ヒクイナ・シロハラクイナ・パン・タマシギ・シロチドリ・カワセミ
陸鳥 32 種	ツミ・カンムリワシ・キジ・ミフウズラ・ヤンバルクイナ・アマミヤマシギ・カラスバト・キジバト・キンバト・ズアカアオバト・リュウキュウコノハズク・オオコノハズク・アオバズク・コゲラ・ノグチゲラ・リュウキュウツバメ・サンショウクイ・シロガシラ・ヒヨドリ・モズ・アカヒゲ・イソヒヨドリ・ウグイス・セッカ・キビタキ・ヤマガラ・シジウカラ・メジロ・スズメ・コシジロキンバラ・ジャワハッカ・ハシブトガラス
夏鳥 14 種	
水鳥 11 種	オオミスナギドリ・アカオネットアイチョウ・アカアシカツオドリ・アオツラカツオドリ・オオアシサシ・ベニアジサシ・エリグロアジサシ・マミジロアジサシ・セグロアジサシ・コアシサシ・クロアシサシ
陸鳥 3 種	ヒメアマツバメ・アカショウビン・サンコウチョウ

冬鳥 97種	
水鳥 48種	ハジロカイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・サンカノゴイ・ヨシゴイ・ササゴイ・ダイサギ・チュウサギ・アマサギ・コサギ・アオサギ・クロツラヘラサギ・マガン・オオハクチョウ・コガモ・ヨシガモ・オカヨシガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ハシビロガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・スズガモ・カワアイサ・ミサゴ・ツルクイナ・オオバン・コチドリ・ダイゼン・タゲリ・キョウジョシギ・ヨーロッパトウネン・トウネン・ヒバリシギ・オジロトウネン・ハマシギ・ツルシギ・クサシギ・タカブシギ・イソシギ・タシギ・セイタカシギ・ユリカモメ・セグロカモメ・ウミネコ・ズグロカモメ・キセキレイ・ハクセキレイ
陸鳥 49種	トビ・オオタカ・ハイタカ・オオノスリ・ノスリ・ハヤブサ・チョウゲンボウ・マシギ・ヘニバト・コミミスク・バリ・マミジロタヒバリ・ピンズイ・ムネアカタヒバリ・タヒバリ・アカモズ・ノゴマ・オガワコマドリ・ジョウビタキ・ノビタキ・ルリビタキ・トラツグミ・クロツグミ・アカハラ・シロハラ・マミチャジナイ・ツグミ・オオヨシキリ・ムジセッカ・キマユムシクイ・カラフトムシクイ・キクイタダキ・オジロビタキ・ツリスガラ・ホオアカ・コホオアカ・ミヤマホオジロ・シマアオジ・アオジ・クロジ・オオジュリン・アトリ・マヒワ・コイカル・シメ・ギンムクドリ・ムクドリ・ハッカチョウ・ミヤマガラス
旅鳥 73種	
水鳥 40種	オオヨシゴイ・ミソゴイ・ヒシクイ・シマアジ・ヒメクイナ・ハジロコチドリ・メダイチドリ・オオメダイチドリ・オオチドリ・ムナグロ・コバシチドリ・ケリ・アメリカウズラシギ・ウズラシギ・サルハマシギ・コオバシギ・オバシギ・ミユビシギ・ヘラシギ・エリマキシギ・キリアイ・オオハシシギ・アカアシシギ・アオアシシギ・メリケンキアシシギ・キアシシギ・ソリハシシギ・オグロシギ・オオソリハシシギ・ダイシャクシギ・ホウロクシギ・チュウシャクシギ・ハリオシギ・チュウジシギ・オオジシギ・ソリハシセイタカシギ・アカエリヒレアシシギ・ハジロクロハラアジサシ・ロハラアジサシ・アジサシ
陸鳥 33種	アカハラダカ・サシバ・コシャクシギ・ツバメチドリ・カッコウ・ホトトギス・ヨタカ・ハリオアマツバメ・アマツバメ・ヤツガシラ・ショウドウツバメ・ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ・イワミセキレイ・ツメナガセキレイ・セジロタヒバリ・キレンジャク・ヒレンジャク・マミジロ・ヤブサメ・シマセンニュー・メボソムシクイ・ムギマキ・エソビタキ・コサメビタキ・キマユホオジロ・カシラダカ・シマノジコ・ツメナガホオジロ・コムクドリ・カラムクドリ・ホシムクドリ
迷鳥 94種	
水鳥 49種	アビ・ミミカイツブリ・シラオネッタイチョウ・モモイロペリカン・ハイイロペリカン・ヒメウ・オオグンカンドリ・コグンカンドリ・タカサゴクロサギ・アカガシラサギ・カラシラサギ・コウノトリ・ナベコウ・ヘラサギ・コクガン・ハイイロガン・カリガネ・サカツラガン・インドガン・コハクチョウ・アカツクシガモ・ツクシガモ・アカノドカルガモ・メジロガモ・コウライアイサ・ミコアイサ・オジロワシ・ナベツル・クイナ・コモンクイナ・レンカク・ミヤコドリ・イカルチドリ・ヒメハマシギ・コモンシギ・シベリアオオハシシギ・コキアシシギ・カラフトアオアシシギ・アオシギ・コシギ・ハイイロヒレアシシギ・カモメ・アメリカズグロカモメ・オニアジサシ・ハシブトアジサシ・ヒメクロアジサシ・アオショウビン・ナンヨウショウビン・セグロセキレイ
陸鳥 45種	カタグロトビ・ケアシノスリ・ハイイロチュウヒ・クロハゲワシ・セーカーハヤブサ・ヒメチョウゲンボウ・ヒメモリバト・シラコバト・アオバト・バンケン・トラフズク・ヒマラヤアナツバメ・ヤマショウビン・ブッポウソウ・アリスイ・クビワコウテンシ・ヒメコウテンシ・コヒバリ・キガシラセキレイ・マキバタヒバリ・アサクラサンショウクイ・タカサゴモズ・オオカラモズ・クロジョウビタキ・クロノビタキ・イナバヒタキ・ハシグロヒタキ・サバクヒタキ・カラアカハラ・クロウタドリ・ノドグロツグミ・ミヤマヒタキ・チャバラオオルリ・ズアオホオジロ・ズグロチャキンチョウ・ユキホオジロ・イスカ・ニューナイスズメ・バライロムクドリ・ミドリカラスモドキ・オウチュウ・ハイイロオウチュウ・カンムリオウチュウ・コクマルガラス・ハシボソガラス

参考資料

## 21 サンゴとサンゴ礁

自然

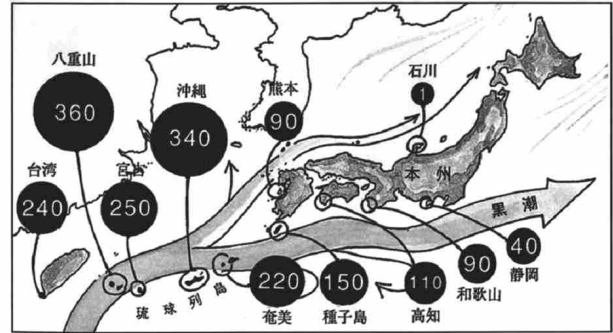
### ●サンゴとは

サンゴは刺胞動物（門）の仲間で、イソギンチャクやクラゲなどと同じグループに属する「動物」である。刺胞動物の特徴は、他の生物を攻撃するための「刺胞」とよばれる武器を持っていることにある。

### ●造礁サンゴ

サンゴの仲間には、体内に「褐虫藻」と呼ばれる光合成を行う共生藻を住まわせているサンゴがいる。このようなサンゴは石灰質の骨格を形成し、サンゴ礁の形成に重要な役割を果たすことから、造礁サンゴとよばれている。造礁サンゴは、褐虫藻の光合成によって生産された有機物を利用している。この生産物なしには正常な発育ができない。

日本には約 400 種類の造礁サンゴがいて、沖縄では 380 種以上が確認されている。日本の造礁サンゴの種類は八重山諸島で一番多く、黒潮の流れに沿って、沖縄島、九州、四国、静岡と北上するにつれて少なくなっていく。

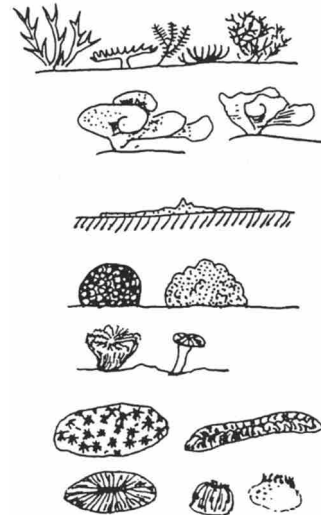
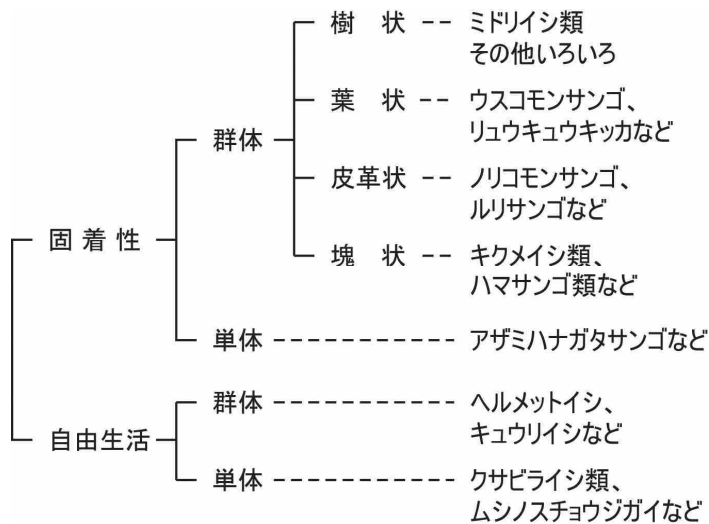


日本のサンゴの分布、  
数値はおおよそのサンゴの種類数  
出典：サンゴのはなし、1992

### ●造礁サンゴの仲間たち

#### 造礁サンゴの特徴

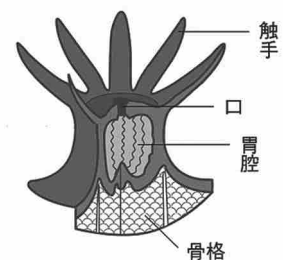
- (1) 固着性 ほとんどの造礁サンゴは岩にしっかりと固着している
- (2) 群体性 多くのポリプが集合して群体を作っている



ポリプ

ポリプ：サンゴの基本的な単位で、どのサンゴも一つかそれ以上のポリプからできている。  
ポリプには一つの口があり、そのまわりに餌をつかまえたりほかのサンゴを攻撃したりする触手がある。

出典：環境省エコジン  
<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/issues/18-07/18-07d/tokusyuu/2.html>



参考資料

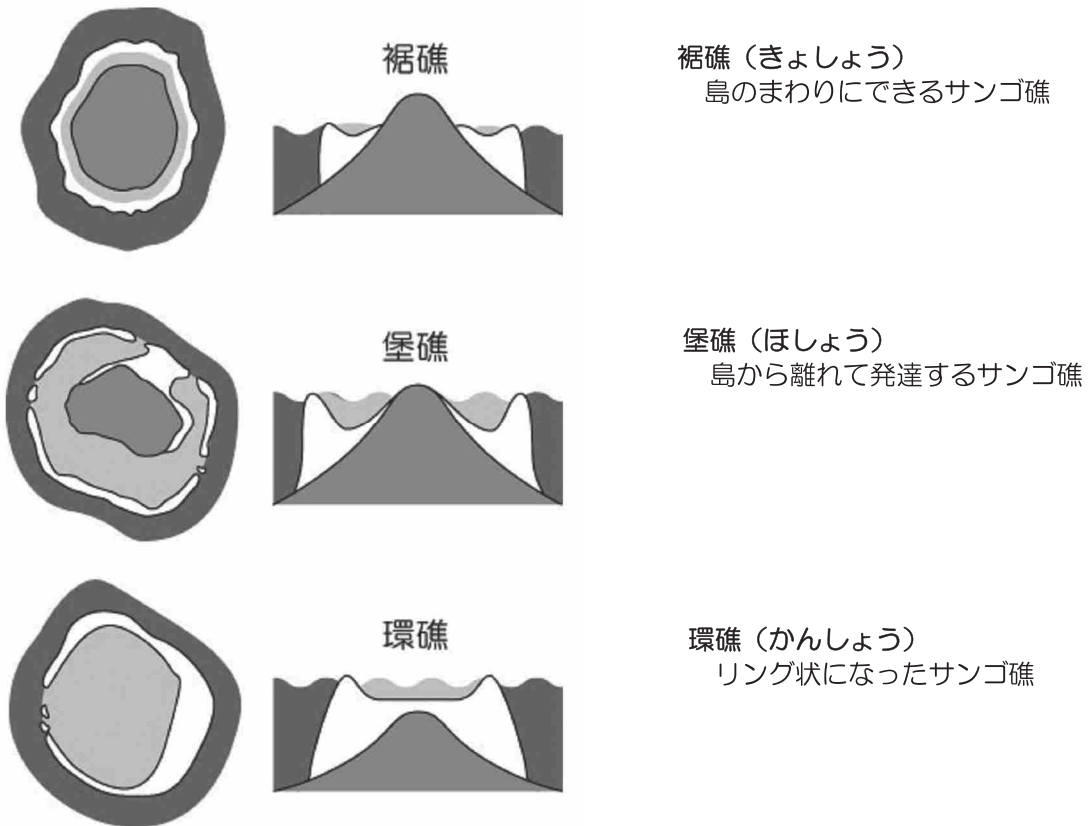
## ●サンゴ礁とは

サンゴ礁は、造礁サンゴをはじめとして有孔虫などの硬組織(石灰質の殻や骨)を持つ数多くの動物やサボテングサなどの石灰藻類の遺骸を基に作り上げられた「地形」のことをいう。ここは、サンゴや魚類などさまざまな海洋生物が生息する環境となる。

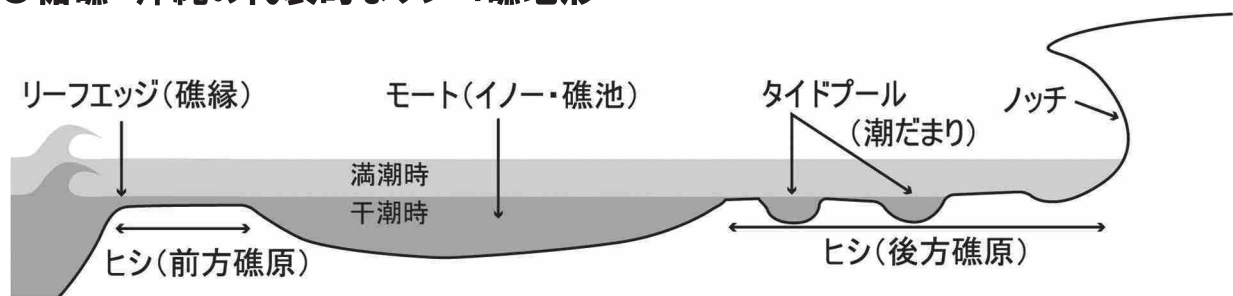
沖縄に特徴的な白い砂浜は、サンゴ礁を形成しているサンゴ礁生物の遺骸起源のものである。白い石灰質の骨や殻が細くなることで、白い砂浜が生まれる。これはサンゴ礁域にほぼ共通して見られる。

## ●三つのサンゴ礁地形

サンゴ礁は三つの基本的な形に分けることができる。沖縄で見られるサンゴ礁はほとんどが裾礁で、八重山地方には堡礁も見られる。



## ●裾礁 沖縄の代表的なサンゴ礁地形



モート（礁池）：サンゴ礁に囲まれた、水深数 m 以内の浅瀬

ラグーン（礁湖）：堡礁に見られる、島とサンゴ礁（外礁）の間にある水深数 10m～100m の落ち窪んだ部分

## ●サンゴ礁の環境悪化の要因

### (1) オニヒトデによる食害

成長したオニヒトデはサンゴを餌としている。オニヒトデが大発生すると、サンゴを食べつくしてしまう。オニヒトデに食べられたサンゴは白い骨格だけが残る。

### (2) 白化現象

海水温が高くなるなどのストレスがかかると、サンゴから共生藻が抜け出してしまう。そのためサンゴは色を失い骨格が透けて白く見える。さらに共生藻の光合成作用がなくなるため、サンゴは栄養不足で死んでしまう。

### (3) 赤土汚染

陸から赤土等の土砂が大量に海に流れ込み、サンゴが窒息死してしまう。

## ●琉球列島のサンゴ礁の重要性

ハーバード大学（米国）らの研究チームが、生物多様性に富むサンゴ礁地域 18 か所をリストアップした。そのうち、沖縄のサンゴ礁域で確認された絶滅の可能性のある生物は 75 種と、18 か所の中で最も多かった。また、その中から環境破壊の影響が大きく、緊急の保護対策が必要な「生物多様性ホットスポット」10 か所を選んだ。ホットスポット 10 か所の面積は海全体のわずか 0.012%だが、そこには生息地が限られている絶滅の可能性のある生物の 54%が生息している。



緊急の保護対策が必要なサンゴ礁生物多様性ホットスポット

Science, 2002.2, から作成

## ●サンゴとサンゴ礁を考える

- (1) サンゴ礁の生物多様性について調べる。
- (2) サンゴ礁の果たしている役割について調べる。
- (3) 世界のサンゴ礁の現状を調べる。
- (4) サンゴの減少やサンゴ礁環境の悪化の現状、その原因について調べる。